

参 考 资 料

資料-1 評価項目見直しの方向性

評価項目 見直しの視点		自然的条件						社会的条件				計画条件 ⇒ 市民協働			
		植生		規模	地形		土地利用 ↓ネットワーク	削除 動植物情報	歴史・文化・景観	眺望		レクリエーション	削除 上位計画	市民要望	市民活動
		植生の状況	生育の状況		多様性	削除 傾斜度				鉄道駅等・主要道路からの眺望	追加 学校・病院・高齢者施設からの眺望				
①環境保全	生物多様性の保全			◎ 里山の観点				○ 生物生息空間	◎ 水辺地の考え方				○ 生態系ネットワークの観点	○ 生態系の保全	
	地球温暖化対策	○ 樹木の保全	○ 健全な樹林地の保全												
	水源涵養	○ 階層構造の発達した樹林地			○ 水辺地の考え方										
②地域らしさのある身近な景観の形成				○ 市街地に残る緑	○ 崖線・谷戸				○ 地域らしさ	○ 鉄道・主要道路からの眺望	◎ 身近な景観			○ 身近な緑の保全	
③防災・安全						◎ 急傾斜地の防災の考え方									○ 市民活動の安全性
④コミュニティの形成								○ 歴史・文化の学習の場				○ 地域活動			◎ 緑地の活用
評価項目の検討		生物多様性の視点から植生の状況を細分化し評価する。		市街地に残る身近な緑地の重要性を評価する。	生物多様性の視点から、水辺地について評価する。	傾斜度30度以上の斜面緑地においては、急傾斜地崩壊対策工事により緑を喪失する可能性があるため、評価項目から削除する。	中項目のタイトルを「土地利用」から「ネットワーク」に変更する	評価項目とはせず、カルテの調査項目として希少種を含む動植物の記録を蓄積し、保全管理に活用する。			地域の拠点である学校や病院、高齢者施設と緑とのつながりを評価する。 (児童・生徒⇒次世代につなげる)		緑の基本計画の改定により、評価対象緑地がすべて上位計画に位置付けられたため、評価項目から削除する。		市民協働による保全管理活動をしやすい緑を評価する。

①自然的条件

a 植生

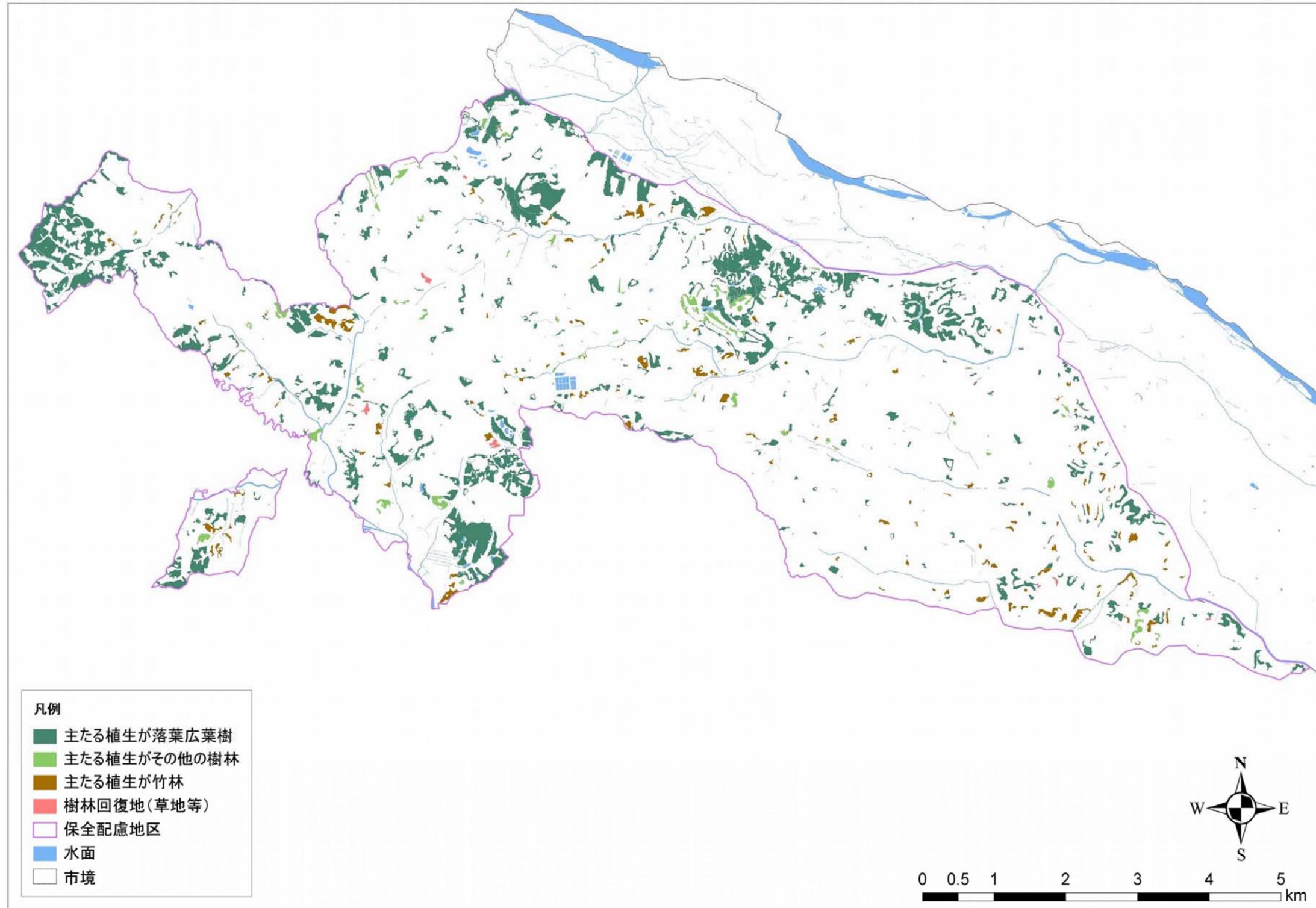


図1 主たる植生の状況

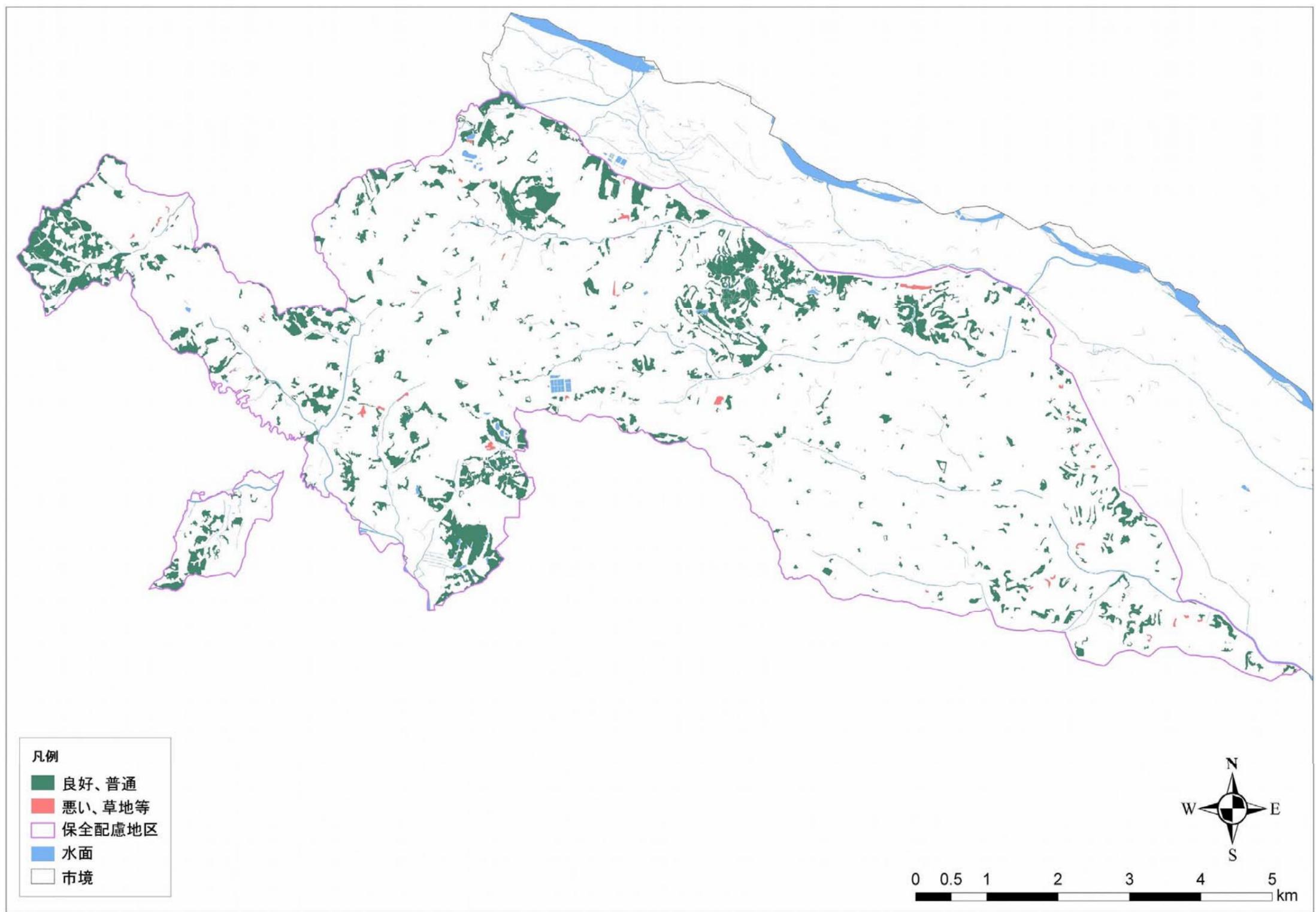


図2 生育の状況

b 規模

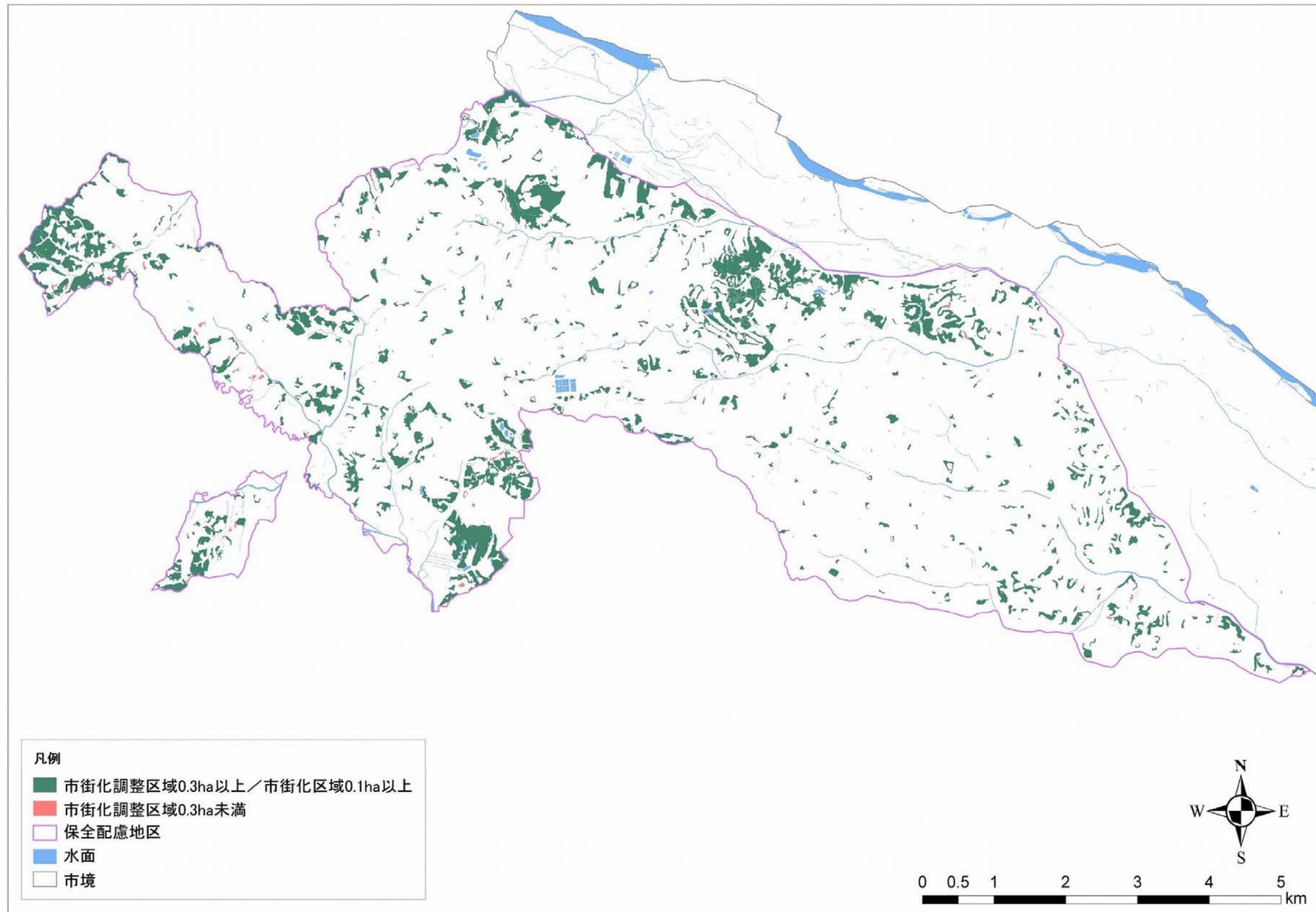


図3 緑地のまとめ

c 地形・小流域

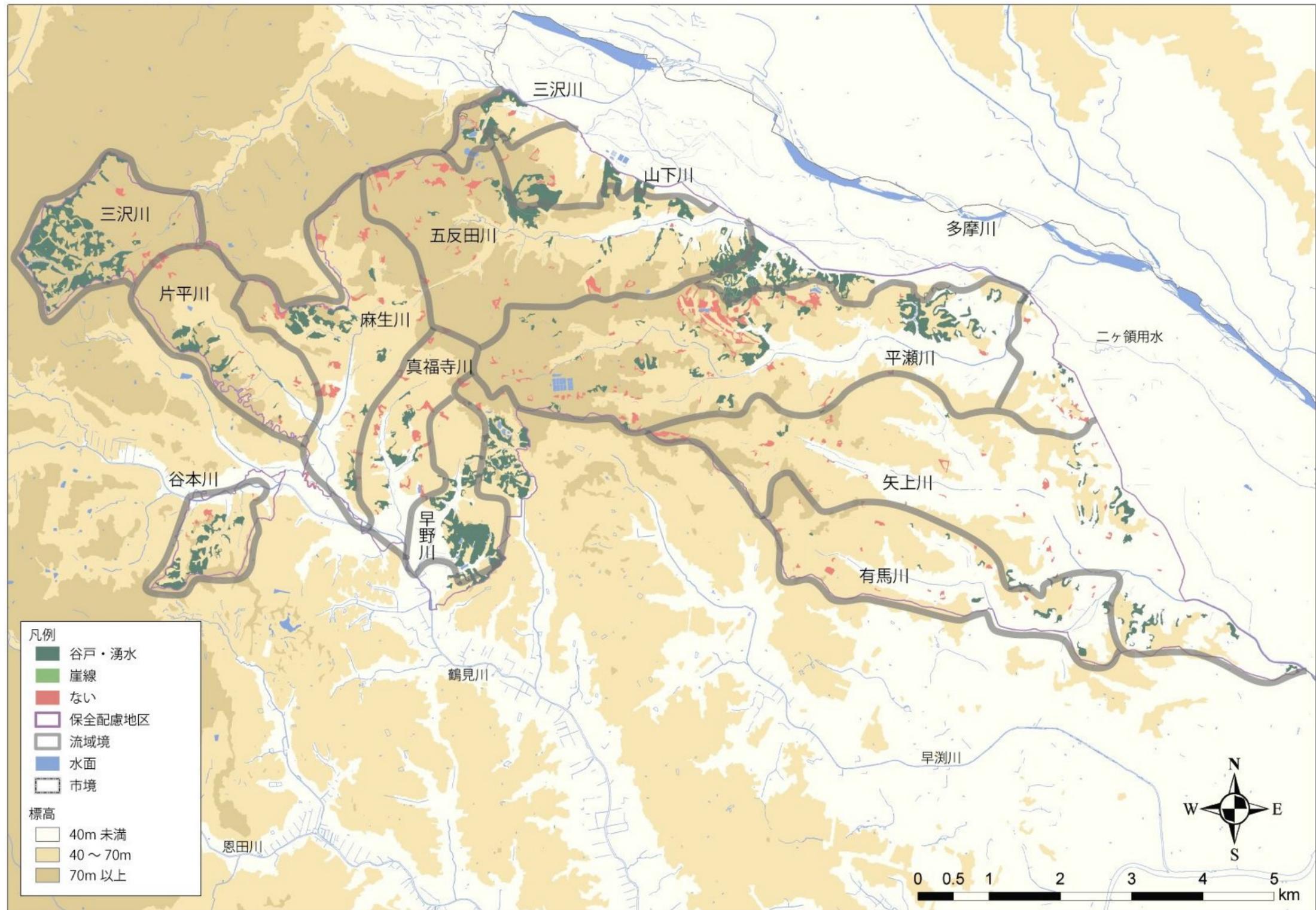


図4 多様性

d ネットワーク

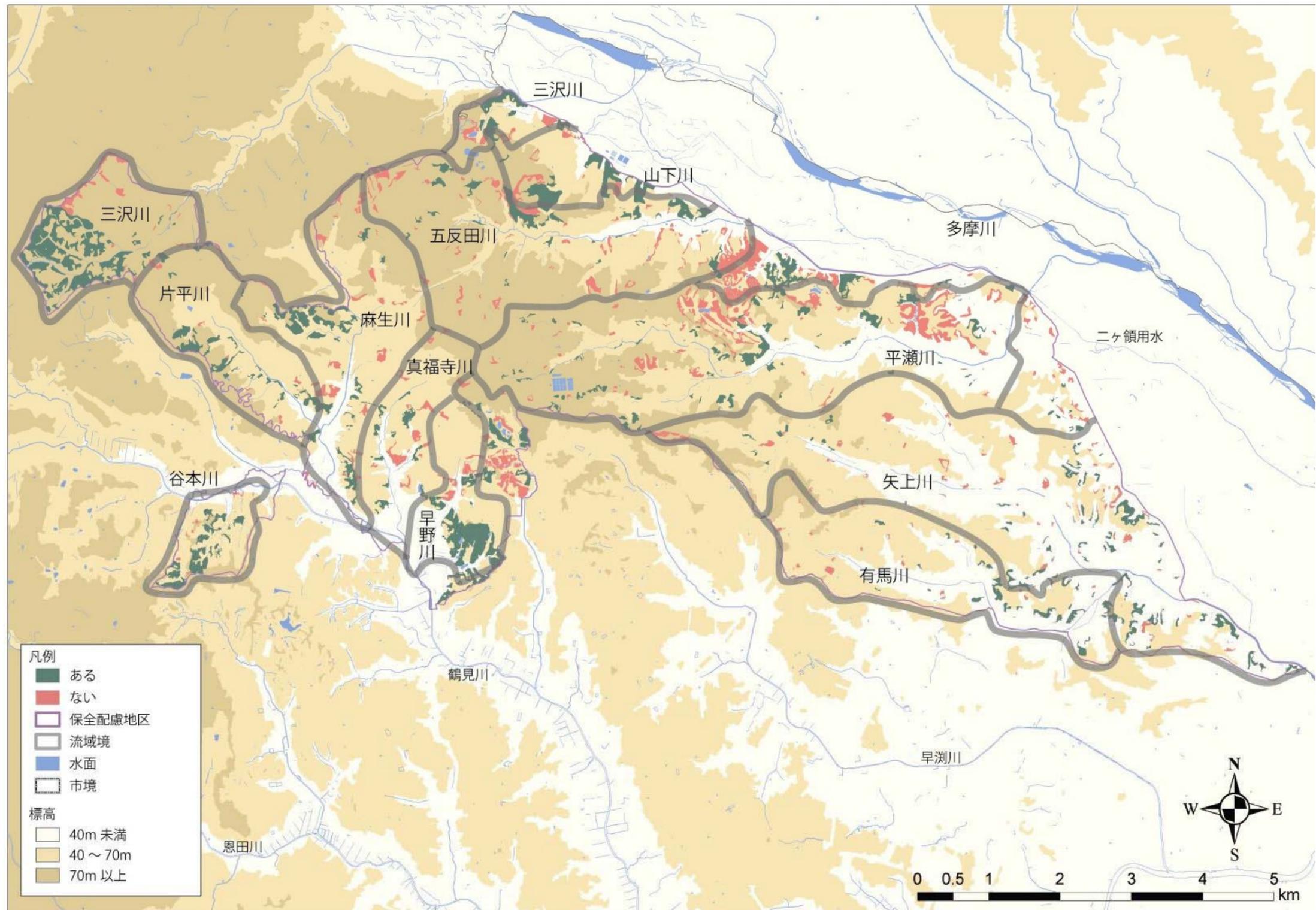


図5 河川、農地との一体性・ネットワーク性

②社会的条件

a 歴史・文化・景観

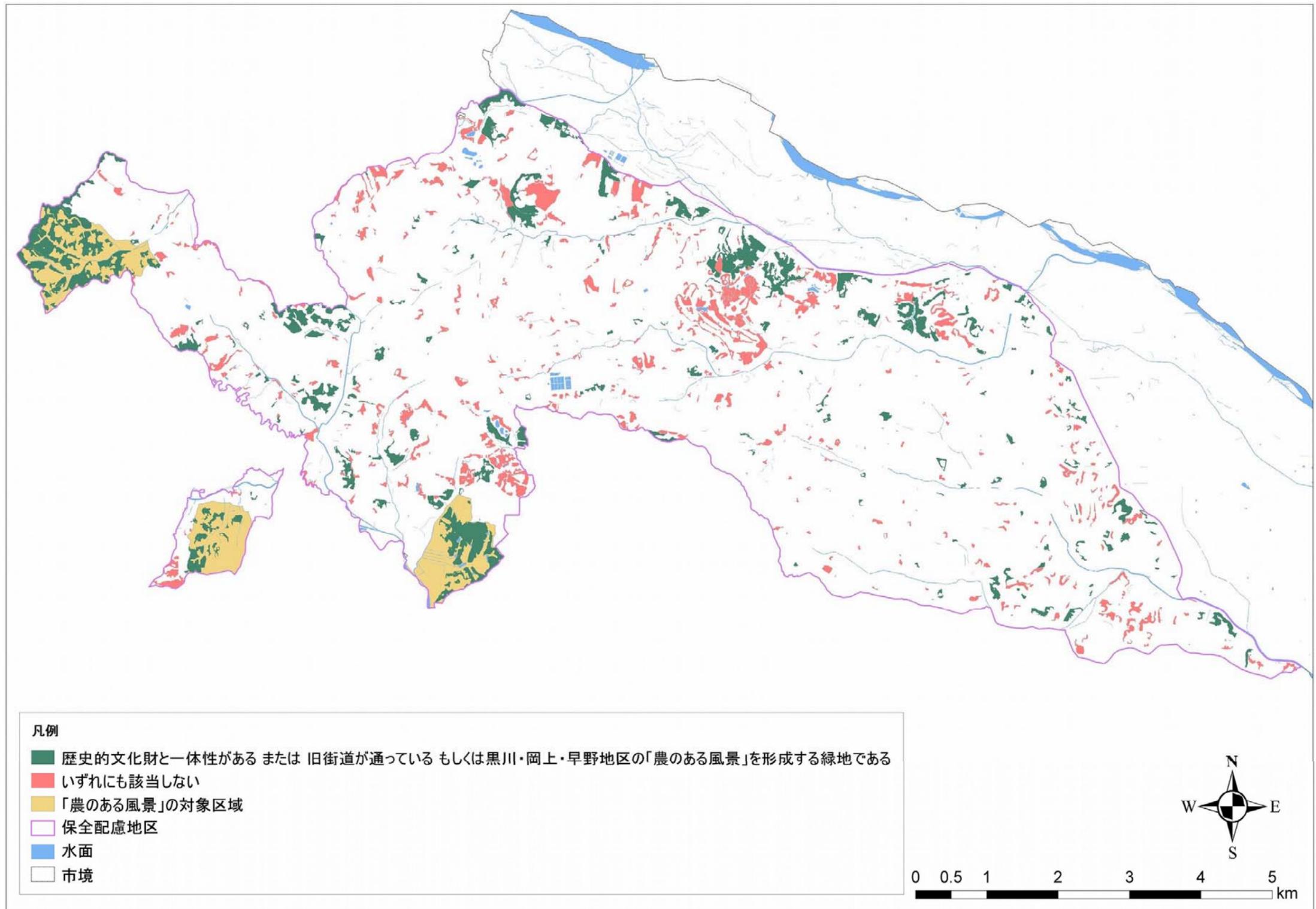


図6 歴史・文化資源との一体性及び農のある風景の保全

b 眺望

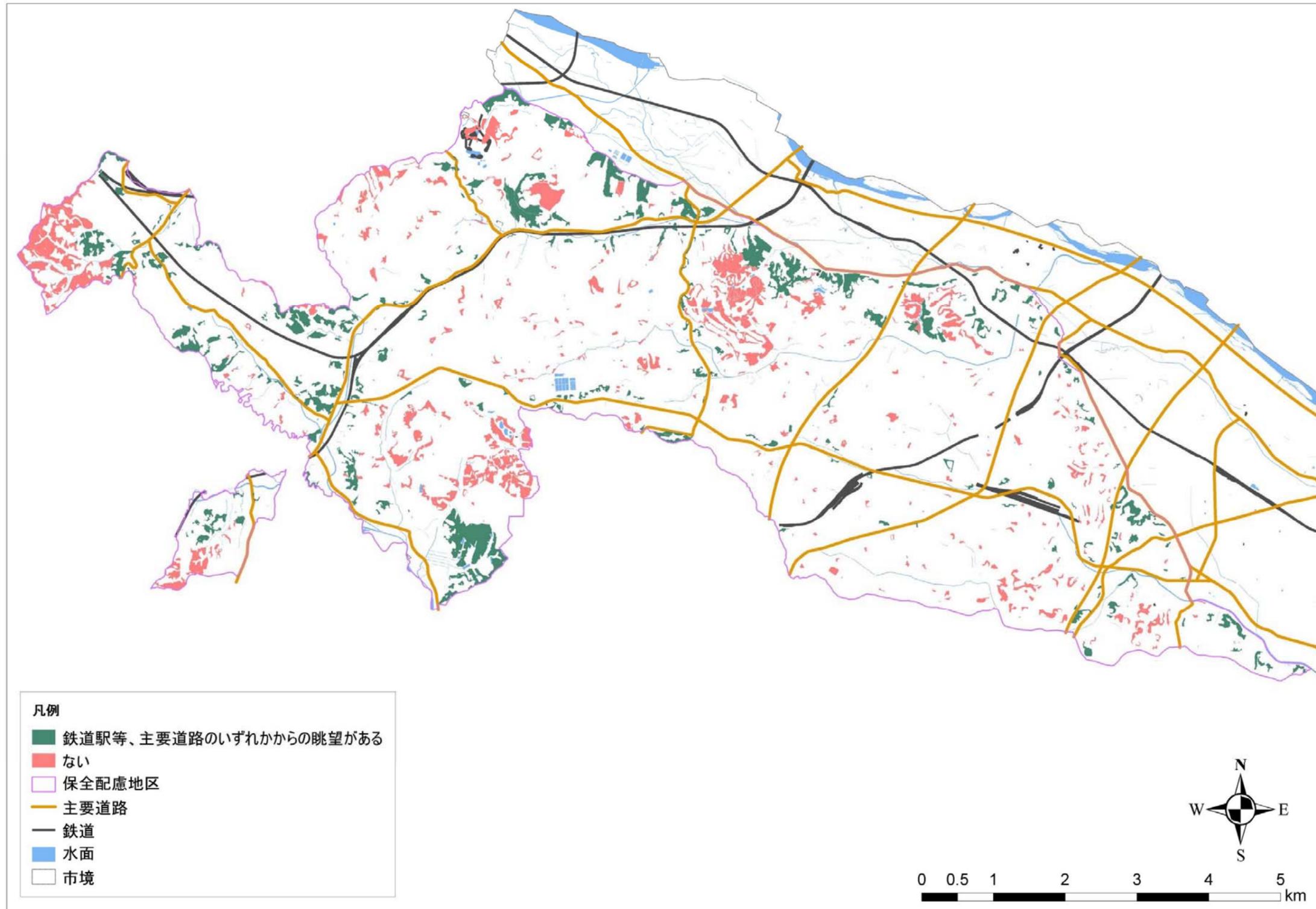


図7 鉄道駅等、主要道路からの眺望

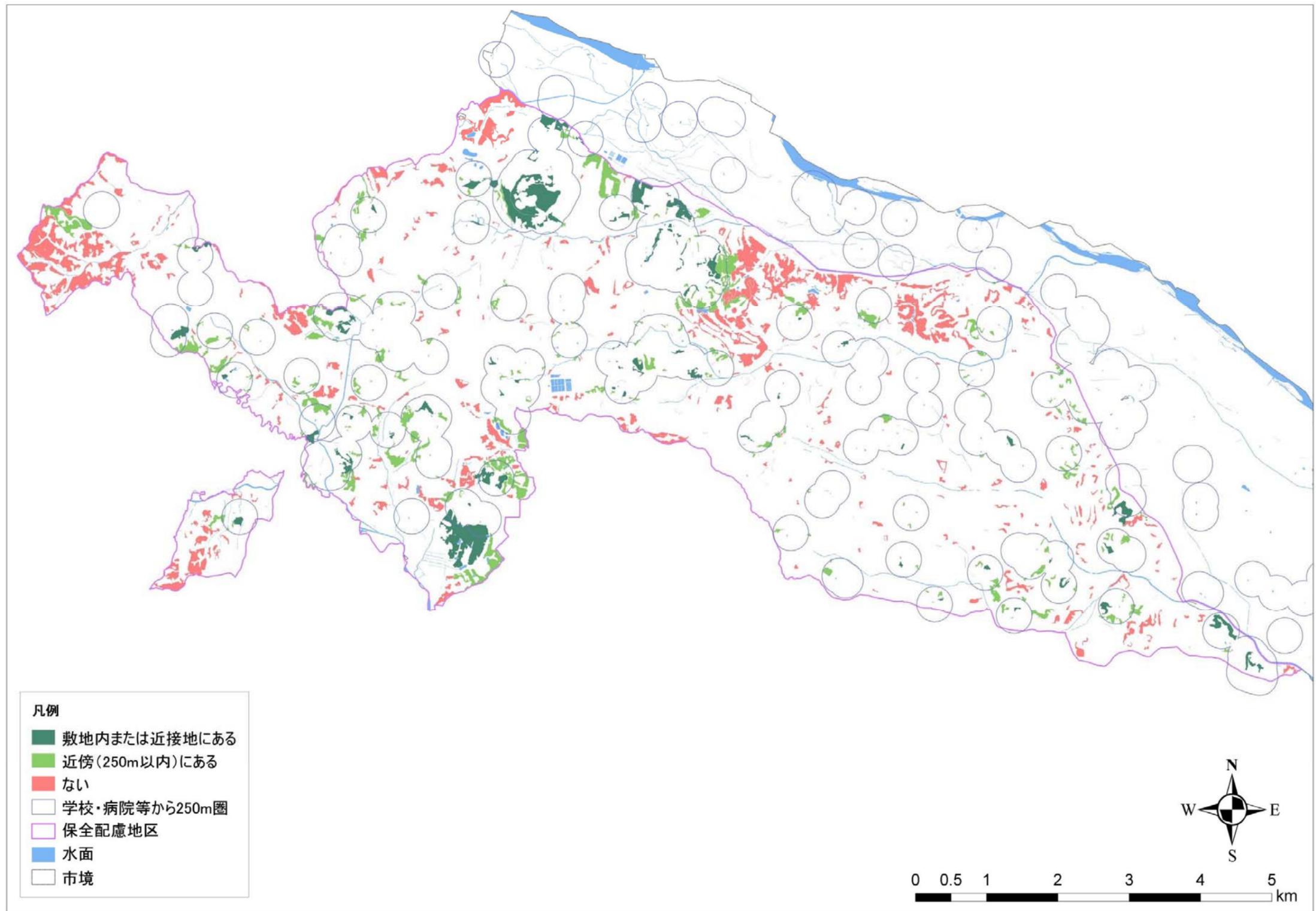


図8 学校・病院・高齢者施設からの眺望

c レクリエーション

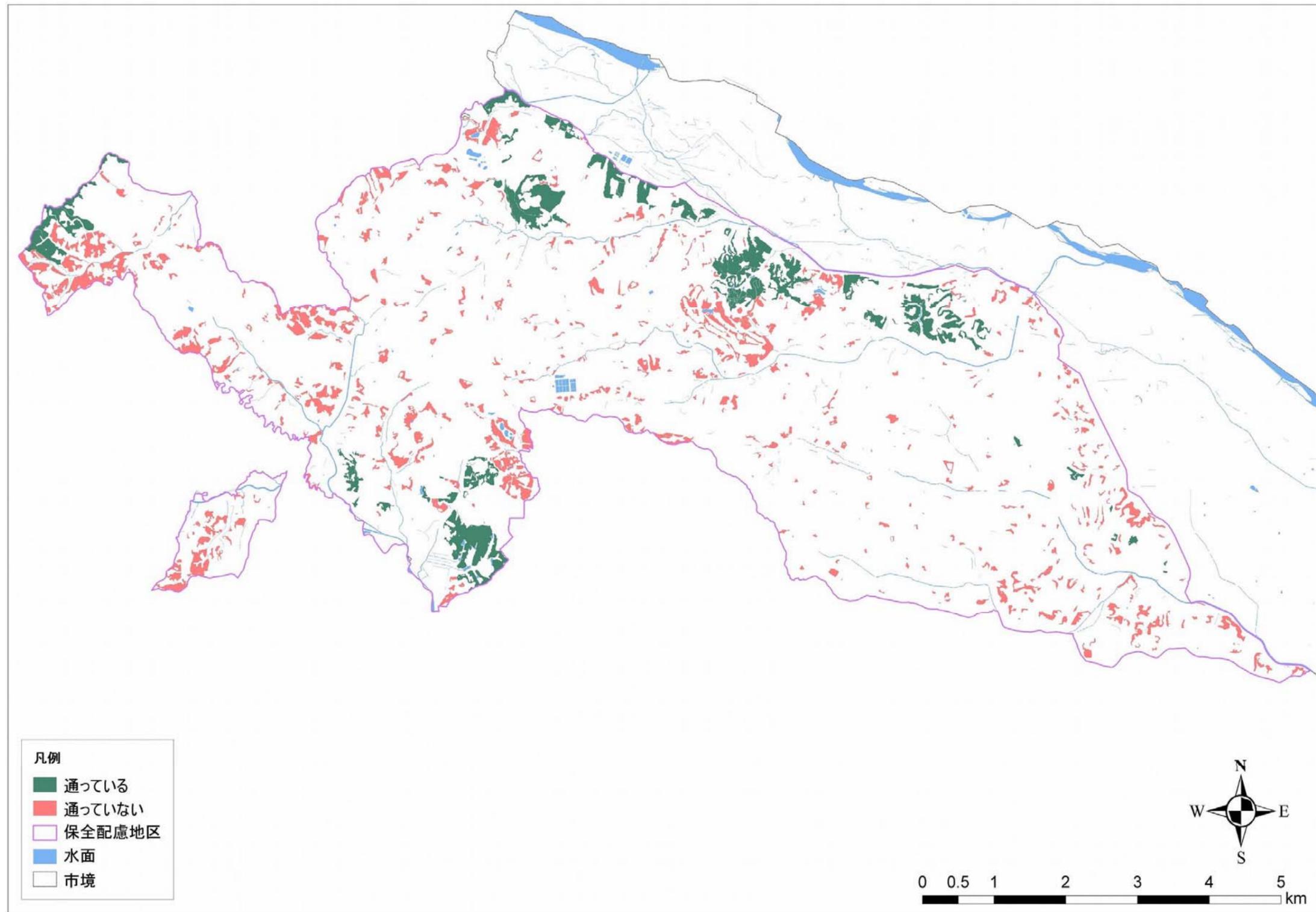


図9 遊歩道・散歩道が通っているか

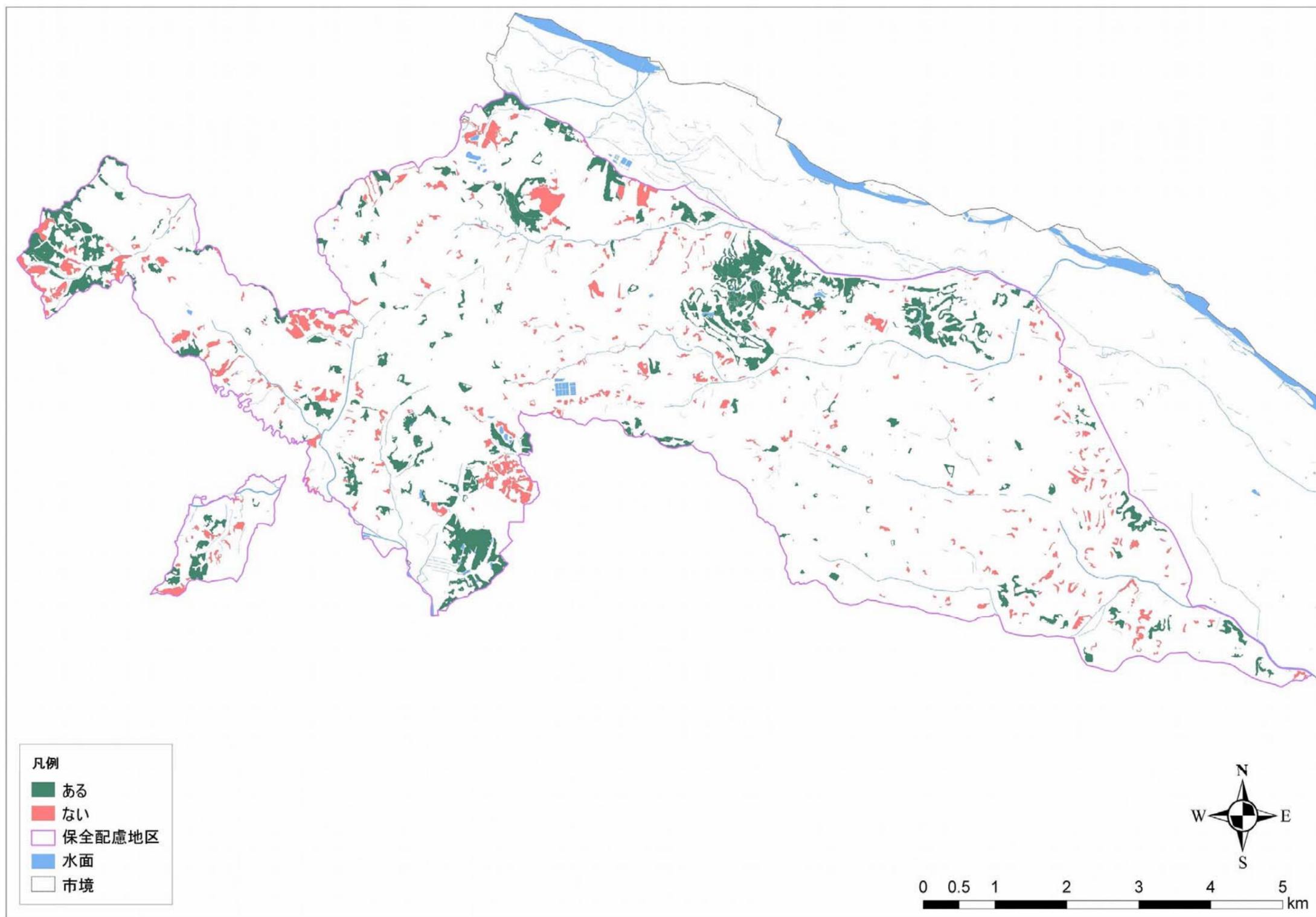


図10 都市公園等との連続性

③市民協働

a 市民要望

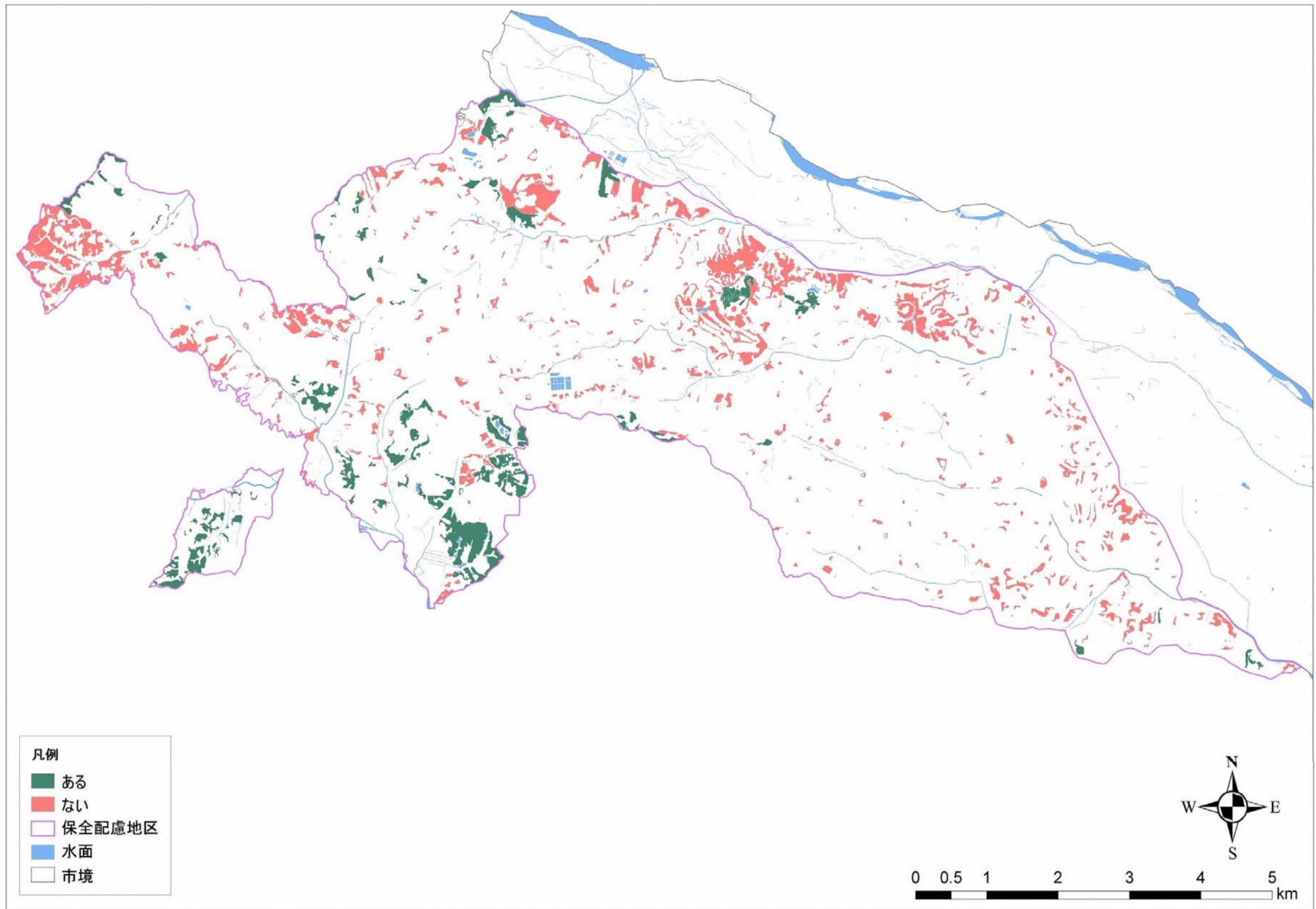


図 1 1 緑の保全地域申出等

b 市民活動

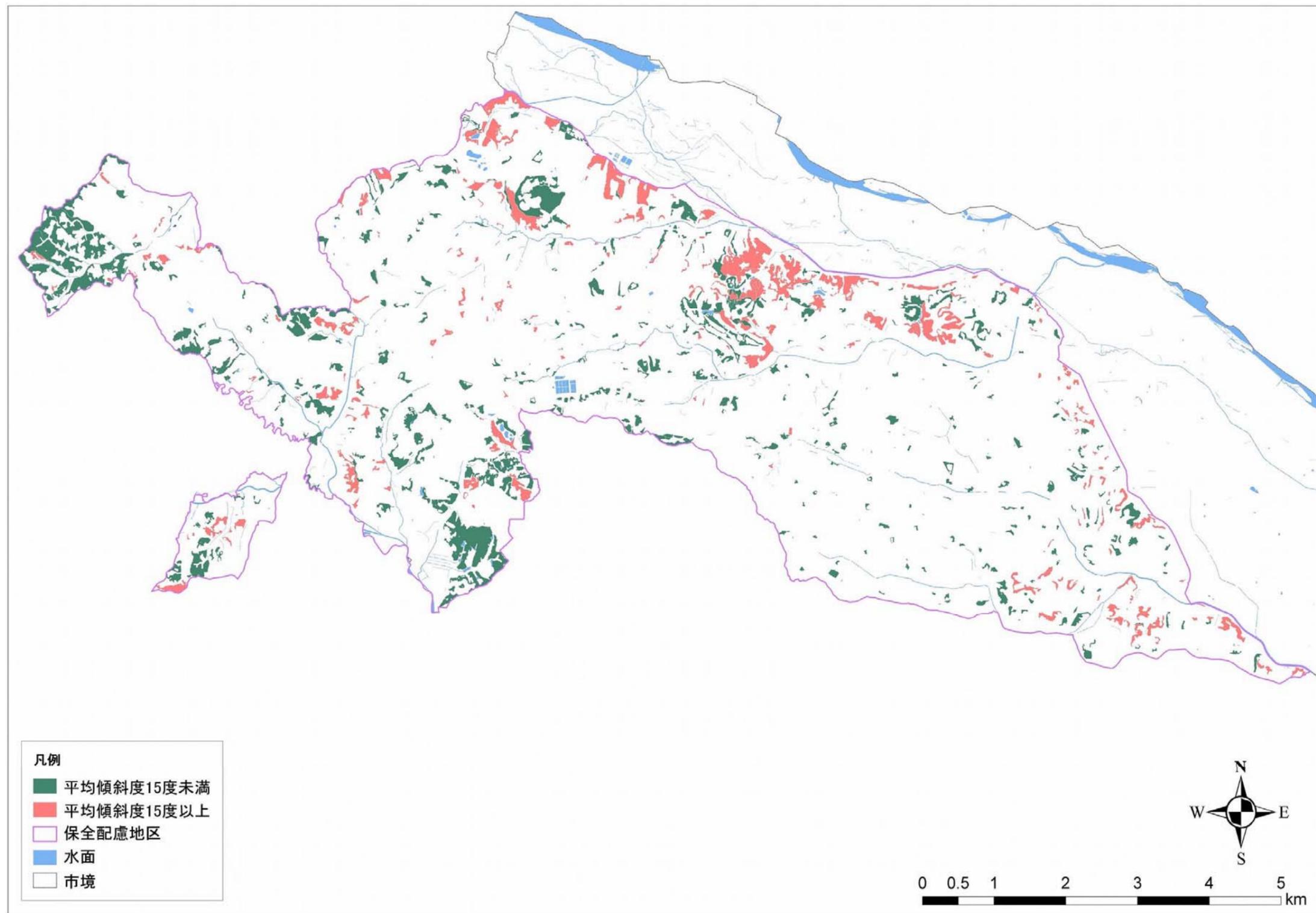


図12 活動の容易性

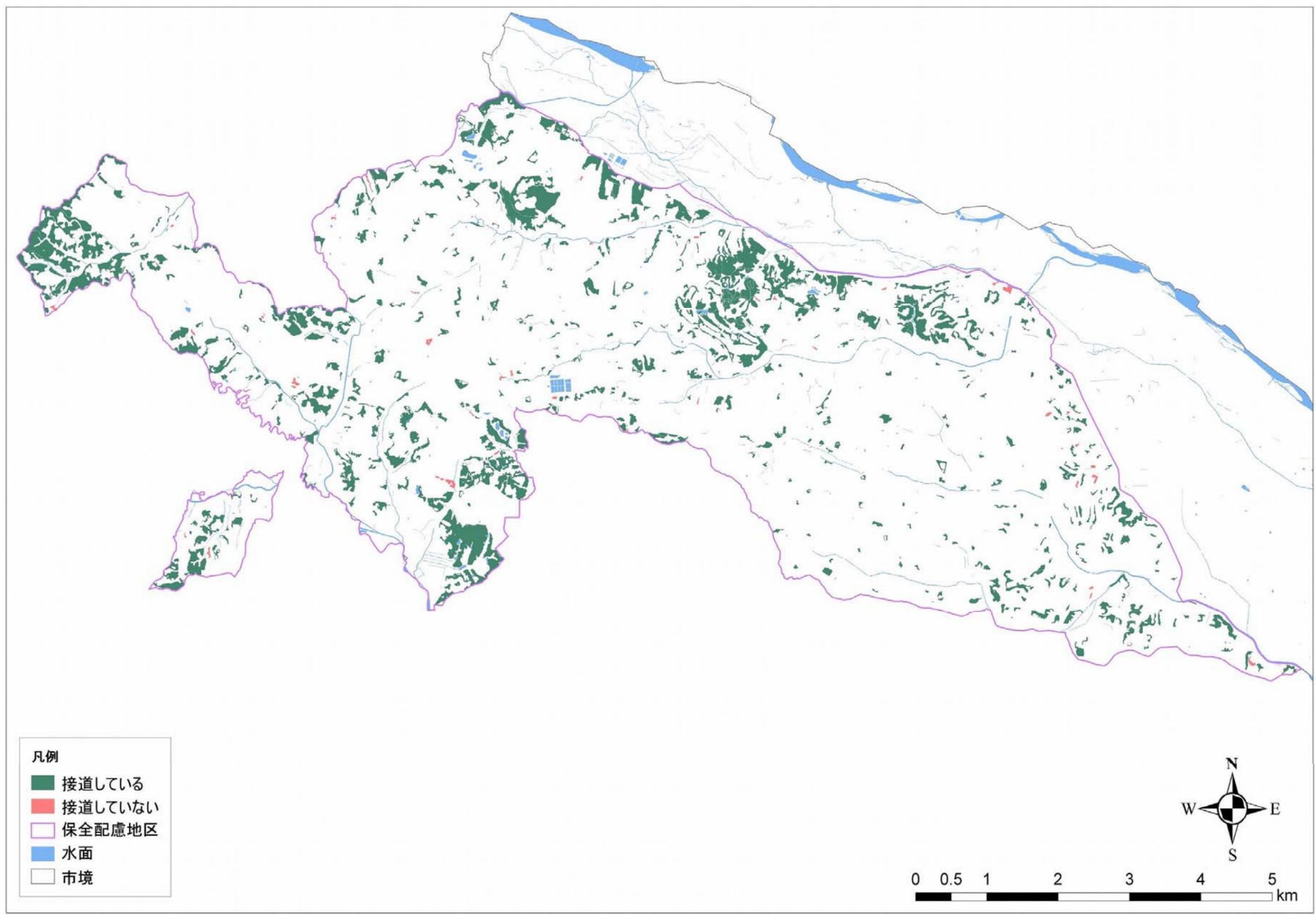


図13 アクセス性